

全スタッフが贈る イチ押しセレクション16選

「ツリーハウスで夢をみる」
アラン・ロランほか著
二見書房
527ツ
篠崎ほか所蔵



ページを開くと現れるのは、いつか物語の中で憧れた、大きな木の上の小さな家。宿り主の木の枝を切らず、直接ぐきを打つことなく作られています。小さく居心地の良い場所で過ごす一夜はどんなだろうと夢見ずにはいられません。

「友がみな我よりえらく見える日は」
上原 隆著
学陽書房
916ウ
中央所蔵



心が挫けそうな時に読んでください。普通の人々の過酷な人生をインタビュー形式で綴るノンフィクションです。本当は内緒にしておきたかったけど、私も本書に励まされた一人なので、作者に恩返しです。続編もあります。

「新耳袋」
現代百物語
第一夜～第十夜
木原 浩勝/
中山 市朗著
メディアファクトリー
147キ 1～10
小岩ほか所蔵



かつて江戸時代に怪談・奇談を集めて編纂された耳袋が、現代に復活。幽霊はもちろん、妖怪・宇宙人の話など多数収録。脚色のない文章が、読者の想像力を膨らませ、さらに恐怖心を掻き立てる。怪談好きにはたまらない、珠玉の作品です。

「モンテ・クリスト伯」
アレクサンドル・デュマ著
岩波書店
B953テ 1～7
小岩ほか所蔵



ちょっと長めの作品ですが、一読の価値ありです。自分さえ良ければ良いという人間の醜さと、自分を成長させる為には師と呼べる人の存在が必要なんだと感じた物語です。主人公が牢獄から脱出する方法にはちょっとビックリしました。

「闘技場」
フレドリック・ブラウン著
福音館書店
J9337
篠崎ほか所蔵



SFショートショートの名手、フレドリック・ブラウンの短篇集。テンポのいい展開、キレの鋭いオチは、星新一好きの方ならきっと気に入るはず。翻訳も星氏によるものです。SF初心者の方にもオススメです！

「回想のなかのカフカ」
ハンス＝ゲルト・コッホ編
平凡社
940.2カ
中央ほか所蔵



ごく親しい友人から少女期にエレベーターでよくカフカと遭遇していただけた人物まで、多彩な顔ぶれの証言から浮かびあがるカフカは、相当素敵！ 特に最後の伴侶、ドーラが語る、公園で人形を失くして泣いていた女の子宛に、3週間に渡ってカフカが人形からの手紙を書き続けたという話が好きです。

「働きアリの2割はサボっている」
稲垣 栄洋著
家の光協会
460イ
篠崎ほか所蔵



普段は気にも留めない身の回りの小さな動植物の世界。そんな彼らの知られざる暮らしぶりを覗いてみませんか。

「蜜柑」
（「芥川龍之介」ちくま日本文学所収）
芥川 龍之介著
筑摩書房
BF7
篠崎ほか所蔵



目に映るものすべてがどんよりと曇り、重苦しさや嫌悪感に満ちた主人公の心。それが一瞬にして暖かな蜜柑色へと染まっていく感動は、何度読んでも変わることがありません。短編ながら深く心に残る珠玉の名作です。

「イエス巡礼」
遠藤 周作著
文藝春秋
B196.7エ
中央所蔵



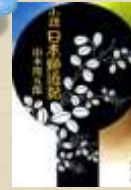
受胎告知から復活まで、ジオット、ベラスケス、ルオーなどの名画15枚とともにイエスの生涯を辿る画文集。カトリック作家である著者が、長年考えてきたイエスの愛の意味を、分かりやすい文章で綴っています。

「ラヴクラフト全集」
1～7
H・P・ラヴクラフト著
東京創元社
B933ラ 1～7
篠崎ほか所蔵



「クトゥルー神話」を築き上げたラヴクラフトの作品集。まずは「インスマウスの影」(1巻)、「クトゥルフの呼び声」(2巻)、「ダニッチの怪」(5巻)あたりがオススメです。副読本があると解りやすいかも。

「小説日本婦道記」
山本 周五郎著
新潮社
BFヤ
篠崎ほか所蔵



日本女性の優しさ、慎ましさ、強さ等、読後の感動は一言で言い表わすことができず、この感動を他の人にも経験して貰いたく、クリスマスの交換プレゼント品に出したり、強要でなく、様々な人に読んで貰う仕掛けをしました。今図書館人になったのも、数十年前のこんな事がキッカケだったからかも知れません。

「森の生活」
ヘンリー・D・ソロー著
宝島社
934ソ
篠崎ほか所蔵



詩人であり思想家でもあったナチュラルリスト、ソロー。私たちは様々なものを手に入れたかわりに、自然や心の豊かさを失ったのではないのでしょうか。今改めてソローの精神に学ぶ必要を感じました。

「グスコープドリの伝記」
（「新編風の又三郎」所収）
宮沢 賢治著
新潮社
BFミ
篠崎ほか所蔵



農民とともに苦しみ、農民とともに生きた作家・宮沢賢治の分身ともいえる主人公・グスコープドリ。全ての人間の幸せを願い、学び、働き、生き抜いたその姿は、“本当に大切な何か”を思い出させてくれます。

「幕末史」
半藤 一利著
新潮社
215ハ
篠崎ほか所蔵



タイトルからして「難しそうだなあ・・・」と思うかもしれませんが、実はそうでもない本なのです。幕末の時、志士たちは何を目指したの？ 明治維新って何？ 勝海舟や西郷隆盛を中心に、時代の転換期をゆる〜く、時に鋭く語ってくれます。

「最後の一場」
スタンレイ・エリン著
早川書房
933エ
篠崎ほか所蔵



伝説のワインが引き起こす衝撃の結末に驚かされましたが、その後の展開がさらに興味深い短編です。女心って・・・。

「阪急電車」
有川 浩著
幻冬舎
F7
中央ほか所蔵



この本はジャケ買いをしました。だって何と言っても、タイトルがああずき色の「阪急電車」ですもの。しかも今津線。宝塚駅から西宮北口駅までのたった14分の中で駅ごとに乗り合わせた人々が紡ぎだす連作短編小説です。往復の物語ですが、復路にはちょっとした仕掛けが。「気がつけば、降りる駅」の読書週間にオススメの一冊です。私？・・・は、昔阪急宝塚沿線在住でした。

スタッフのセレクション！ 第14回

「こどもの一生」中島 らも著
集英社 Fナ 篠崎ほか所蔵

とある離島のセラピー施設に、それぞれの悩みを抱えた個性的な5人の患者がやって来ます。彼らは現代社会によるストレスからの解放のため、退行療法を受けて10歳の精神に戻って数日間を過ごすことに。“こどもたち”の間にも微妙な人間関係が築かれる中、突然の来訪者で物語は一変。戦慄の時間の始まりです。

一読すると前半はコミカルな展開で笑える部分も多く、まさに「よくできたB級ホラー」(後書きでの著者自称)です。ただ、いわゆるB級ホラーとは、馬鹿馬鹿しい設定や突拍子も無く登場するカイズツに受け手は“非日常”を感じ取り、故に安心して恐怖や気持ち悪さなどを楽しむものではないか、と私は思うのですが、この作品は、読後“日常”に

篠崎図書館で働くスタッフがほとんど個人的趣味で選んだおすすめ本を紹介します。今号は、Mさんが選んだ日常にひそむ恐怖の物語です。

戻ってきても何だか拭いきれない恐怖を感じたまま、背筋がゾクゾクする感覚が残ります。そう、この作品の本当の怖さは後半の怒涛のスプラッター描写ではなく、“日常”のあそびの中でカイズツを作り上げてしまった“こどもたち”の残酷性の部分にあります。そして、大人の社会ではそのカイズツを巧妙に隠し合っているに過ぎないのかもしれない、ということを考え、またゾッとしました。

元々はお芝居の脚本用だった本作品ですが、単純なノベライズ本ではありません。劇場版を超える恐怖を、小説ならではのおもしろさを、と、この作品を練り上げた著者の意気込みが伝わってきます。台風の夜に是非。